

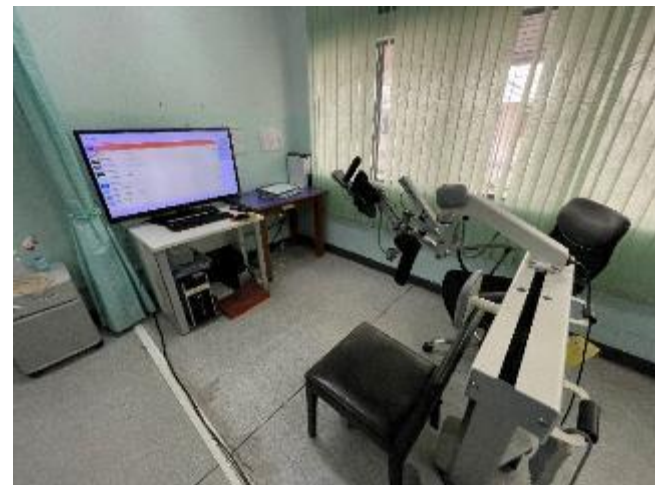
## タイの高齢者向け施設紹介：シリントンリハビリセンター（1/4）

病院情報	概要	1991年に設立された国立病院であり、リハビリテーション医療に特化した臨床・教育機関である。保健省の下部の人間安全保障省に所属している。主に障害者に対するリハビリテーションを行っているという情報だったが、実際には病後の方含め全般的にリハビリテーションを提供している。保健省直下の人間安全保障省の管轄になっている。
	診療科	10デパートメント（ <a href="http://www.snmri.go.th/en-contact-us/#">http://www.snmri.go.th/en-contact-us/#</a> ）
	スタッフ数	PT30人、OT25人、PTアシスタント30人、ST7人（ラマテボディ病院はタイで一番STが多い）
	入院・外来数	入院患者（60床）にもリハビリテーションが提供 1日の外来患者数はおおよそ400名、うちリハ適応患者は200名 午後はSpecial investigation（嚥下障害や呼吸器障害など難症例用の外来をOPEN）
	医療設備	VR技術を用いたリハ機器（歩行・バランス練習、ドイツやスイス製のものがほとんど、Hocoma,Biodex） 運動療法室、義肢装具室、デイケアサービス施設、ヨガ施設、音楽療法施設も併設 50万THB以下の機器は病院の決裁にて購入、50万THB以上の場合。MOPHへ申請が必要（こちら申請して通過しているのは現状シリントン病院のみ） Hocoma、免荷式トレッドミル、Hydro歩行トレッドミルなど各機器3-5人/日ほど 1F：StrokeのIPD/OPDリハ 2F:SpineのIPD/OPDリハをエリア区切って実施 他、ST室（PCでのST練習：4500THBほど）、デイケアなど、MT（P,Oが集団で行う） ATroom
	価格帯	患者さんは保険で無料で受けられる。 ロボットを使った治療2500パーツ/時、水治療法1200パーツ/時
	スタッフ給与	1.8万THB

# タイの高齢者向け施設紹介：シリントンリハビリセンター（2/4）

リハビリ	在院日数	1ヶ月入院(タイの保険上、1ヶ月しか申請できない。そのため1ヶ月終了後に一度退院し、再度申請して入院する方もいる。ただし待ち期間は1-2ヶ月、待ち期間は外来を利用する。)
	対象疾患	理学療法部門は、脳卒中、整形外科、脊髄損傷、小児、義肢装具、水治療法部門に専門の理学療法士が配置されている。
	リハ時間	PT、OT、音楽療法など1セッション1時間で構成されており、1セッションに3〜5人の患者と1人のセラピストが参加する。患者1日あたり3セッション程度実施する。
	急性期リハ	入院日数は保険の関係で1-1.5Mだが、回復期のリハの役割 入院後に評価、MTGし、予後、LTGなど検討、退院時にも指定フォームで評価を行う。
	家族指導	・シーティングは入院中から実施 ・福祉用具などは必要なものを給付できるものはする。購入するものは家族が購入する。 ・家屋調整は写真を撮ってもらい、アドバイスをを行う。近くで独居であれば行くこともある。 ・リハ中に家族を含めリハを実施し、伝えられることは伝える。
	在宅リハ	・退院後は3- 6 Mのフォローアップを外来にて行う。
	他	・地方での義肢装具普及活動 義肢装具を作成するための専用車があり、バンコク以外の地域で義肢装具の作成・修理を行っている。この活動には公的資金が用いられており、医療の偏在を解消するための支援として機能している。 ・装具 外来にて1週間で作成可能、他にインソール（フットプリント、圧力コピー、3Dスキャンで作成可能）、障害手帳と医師からのオーダーがあれば費用はなし。義肢装具は週に50件ほど ・就労支援 障害者向けの職業訓練所は労働省管轄となっており、看護師やソーシャルワーカーが情報共有することはあるが、労働省管轄で区分が違うため、行うとしても看護師、ソーシャルワーカーが情報伝達する程度 ・e-Learning How to take disability care : Mobility,Vison,Hearing,ADHD,LowIQなど7つのコンテンツでタイ国内の医療・介護関連者に向けた講義で受講後にサーティフィケーションが出る。 ・卒後教育 シリントンリハビリセンターで毎年2回、3-5日のトレーニングコースを行う。毎年テーマを決めて各施設から参加者を集い開催する。 ・スタッフの過不足について 肌感的には今タイにPT2万人、OTが1500人いてすでに足りていると考えている。 PTの大学は10以上、OTは2しかない。 ・シリントンリハビリセンターのリハビリテーションセンターのOT EAD（イーさん）から聴取 今、理学療法士の規制がタイ国内では強くリハビリスタッフ以外はリハビリを行うことができない。 アフターケアは家族が行う事が多いが、タイは共働きが多くて、外部から雇う必要があるが、それが高くて雇えない。 在宅医療は法律が決まっていないので、企業が独自でサービスを提供している。 月20000バーツ/月、週6日、住み込み、免許も何もない人。 素人に5日間リハビリや介護について教える政府の制度もある。B to C バイトは80バーツ/時 1日5件回って300バーツ。タイの最低賃金が300バーツ。田舎のボランティア制度をサポートする制度。 独自のFIMを作成中 <a href="#">SNMRC Functional Assessment.pdf</a> スタッフがICAのプログラムで10人ほど半年間兵庫県立リハセンターで研修を行った。
	価格	患者の支払いは無料、保健省から病院に1人150THB入る。

## タイの高齢者向け施設紹介：シリントンリハビリセンター（3/4）





## タイの高齢者向け施設紹介：シリントンリハビリセンター（4/4）

